

## 133 の G77 国家がアメリカの NWO 打倒を盟約

June 28, 2014

GeoengineeringWatch.org (Whiteout Press サイトより転載)



世界中の多数の国家がいま、アメリカ帝国の覇権に反対して結束しつつある。主流メディアはひと言も報じようとしないが、地球全体に大破壊をもたらした権力構造の柱が、倒れ始めている。気象操作という狂気から、世界中の弱小国家の略奪にいたるまで、NWO は、米ドル札を無限に印刷することでその資金を賄ってきた。これまでは無限に供給できたこの帝国の資金が、急速に終わりを迎えてつつある。——Dane Wigington

---

2014 年 6 月 17 日、ボリビア発——アメリカとヨーロッパのメディアは、このニュースを握りつぶすために、可能な限りあらゆることをやっている。しかし、これを長く秘密にしておくことはできない。この週末の時点で、地上に新しい“新世界秩序”が存在し、その敵はアメリカ、EU、国連安保理事会、それに IMF や WTO を先頭とする世界の影の政府である。この弱小国家群の新しい同盟は、中国やインドを含めた世界の 3 分の 2 の国家が参加していなければ、大きな脅威にはならないだろう。

アメリカ政府や国家スポンサーによるニュース産業が、このような重要なニュースを抹殺するとき、アメリカ人民にとって、それは悲しい日である。アメリカ人は現実的に、キューバの Havana Times や Times of India や国連のプレス・リリースのようなニュース媒体に頼るより外ない。このニュースが西側世界で検閲されているのには理由がある。そしてこの問題でアメリカ人の目から消されたのは、過去 2 週間の地球的ニュースだけである。それが

なぜなのかは次を読んでいただきたい。

## “新世界秩序”（NWO）の終わり

地上の最も豊かな、最も力ある国家が G7、G8、G20 といったものを作ったのは、彼らが結束して、人類の残りの 175 か国に対する支配力を固めるためだった。そして過去数十年にわたって、アメリカを先頭とする最も富裕な 20 か国が、最も貧しい 175 か国の犠牲において、指数関数的により豊かになり、後者は逆により貧しくなっていた。これは、国際通貨基金（IMF）や世界貿易機関（WTO）のような、地球政府を自ら任ずる者たちに主として導かれた、西側の“新世界秩序”のもたらした結果だった。

175 か国のうち 133 か国は、ニューヨークとロンドンに拠点をもつ NWO に操られる地球金融システムを、これまで十分に経験している。彼らは自分たちの経済が、決して終わることのない依存と貧困のサイクルを作り出す、腐敗した企業と地球政府によって破壊されるのを見てきた。彼らは、自分たちの膨大な資源が、多国籍企業によって奪われるのを見てきた。彼らの農業のための土地は毒され、彼らの市民たちは IMF とウォール街によって破産させられ、そして彼らの民主的に選ばれた指導者たちは、アメリカのような国からきた外国の職員によって引き下ろされた。

彼らは New World Order には、十分ひどい目にあわされた。そして 133 か国、地上の国家の 3 分の 2 の同盟が、西側の NWO を終わらせ、公平で正直で合法的な世界秩序——最も豊かな者たちだけでなく、すべての人々を参加させ利益を受けさせる秩序——に置き換える合意に、この週末、サインしたのである。

## “次の”世界秩序

この組織は公式に“Group of 77 and China”（リンク）と呼ばれるが、現実にはこの同盟は 133 か国からなる。彼らがどれくらいの影響力をもつかを示したのは、その集会が、今週末ボリビアで、国連事務総長・潘基文の基調演説によって開かれたことだった。聴衆には、世界中の国家の 30 人以上の首脳、それに 100 以上の政府の公式代表がいた。またこの組織の増大する影響力を示すものとして、中国は G77 の中に入ってさえないが、この地球の“次の世界秩序”との一体化を望んで、是非とも参加したいという意思を表明した。

ベネズエラの Nicola Maduro 大統領も参加し、集まった国家に対して、自分たちは「公正で持続できる経済成長と、新しい世界的経済秩序を求めて戦うために」結束しなければならないと訴えた。エクアドルの Rafael Correa 大統領はさらに一歩進んで、集まった国家リー

ダーや代表たちに、「我々がラテンアメリカを通じ、また世界全体を通じて団結したときのみ、我々の声を届かせることができ、単に不公平というだけでなく、不道徳的な国際秩序を変えることができる」と語った。

西側のメディアで唯一の報道といってもよい [AFP on Yahoo News](#) (リンク) の伝えるところでは、キューバ大統領ラウル・カストロも参加したが、彼らの主たる同盟国ベネズエラを助けようという呼びかけには、コメントを差し控えた。キューバ、ベネズエラ、ボリビアをはじめ、多くの南米諸国は、現在、アメリカと CIA による攻撃を受けていると言っており、この者たちは必死になって、彼らの民主的に選ばれた社会主義寄りの政府を、最近非難されているウクライナでの米方式と同じやり方で、クーデターによって転覆させようとしていると言う。

## イランと国連

今週末、国連の発表したあるアナウンスメント (リンク) は、国連事務総長・潘基文の G77 会議への参加を熱心に求めている。それは、この巨大な同盟が、国連の目的にとって、特に国家間で拡大していく世界の経済的不平等を是正するために、いかに重要かを論じている。潘と国連はまた、9月に行われる、別だが、関係する国家間の会合を援助し、2015年に発効すべき、気象に関する新しい決議が起草されることを望んでいる。



(今週末集まった、国連事務総長・潘基文 (中央) とホスト国ボリビア大統領 Evo Morales、および他の 133 か国の世界指導者たち。写真は国連の好意による)

このアナウンスメントは、国連事務総長とイランの副首相の私的な会見について述べている——「今日のサミットの残りの時間に、潘氏はイランの第一副首相 Eshaq Jahangiri と会談し、開発の問題と、イラクとシリアの安定回復にイランが果たせる役割の可能性について話し合った。事務総長は、気象変化についてのイランの積極的な関わりを期待しており、ハッサン・ロウハニ大統領が、この 9 月の気象サミットに出席することを強く願うと述べ

た。」この報告によれば、この2人の指導者はまた、イランの核の野望について、また過去の取決めに応ずる7月の締め切りについて議論した。

## アメリカへの“第二のベトナム”脅迫

出席した政府リーダーたちの多くは、世界平和、民主主義、経済的自由の最大の敵と彼らが考えるもの——アメリカ——に対して打撃を食らわせる発言をした。あるリーダーは、オバマ大統領を名指しで呼び、アメリカを第二のベトナムにするとまで言った。

*Times of India* に報告されているように、今週末のG77会議のホスト、ボリビアのエヴォ・モラレス大統領は、アメリカとアメリカ大統領を脅迫し、集まった各国首脳を前にこう言った——「もしオバマ氏がベネズエラの人民を攻撃し続けるなら、挑発と攻撃に対し、ベネズエラとラテンアメリカは、アメリカにとって第二のベトナムをもたらすだろう。民主主義と天然資源、我々の主権と威厳を守ろうではないか。」

キューバのカストロ大統領は、参加諸国の将来計画に関する問題で、おそらく最も鋭い、論点を絞った発言をした。「ハバナ・タイムズ」が報告した通り、カストロは133か国の同盟にこう語りかけた——「新しい国際的な金融と通貨の秩序、および生産者と輸入者のための公平な通商条件を、IMFや世界銀行を中心とする、資本の守護者たちから、またWTOに巢食っているネオ・リベラルの人々から、我々は要求しなければならない。一致団結だけが、我々十分な大多数を力あるものにする事ができる。」

## 国連の内乱——国連安保理の解体

G77会議とその133の参加国家のより野心的な目標の一つは、国連安全保障理事会をなくすることである。世界の指導者たちは、それは国連全体の上にある5国家による専制体制にすぎない主張している。5つの国が常任安保理メンバーとして、他の国家に拒否権をもつやり方で、国連の方針と行動は、これら5か国——米、英、ロシア、フランス、中国——によって決定されてきた。G77のメンバーは、安保理を廃止し、国連が純粋に民主的な団体に戻るようになることを要求している。

キューバのカストロは、アメリカの偽善と金融腐敗によって運営される地球経済システムを評してこう言った——「国際法の原理と新国際経済秩序の規定は、堂々と破られた。干渉の合法化を狙う概念が押し付けられ、武力が用いられ、武力による脅迫が咎められることなくまかり通り、メディアは分裂を促進するのに用いられた。」

## ドミノが倒れ始める

これは、腐敗した政府と、彼らをコントロールする多国籍企業に操られる地球的金融システムへの、ごく最近の組織的攻撃にすぎない。つい先月、ロシアと中国は、米ドル・バブルの最初の大きな亀裂となる長期貿易同盟を結んだ。この 2 国は、彼らの取引に米ドルを使うことをやめ、彼ら自身の 2 つの通貨を使うことに同意した。両国の 2 つの最大の銀行は直ちに、米ドルを投げ売りすることになるだろうと発表した。

それに加えて、世界の ‘BRIC’ 国——ブラジル、ロシア、インド、中国——は、腐敗した米ドルを、ある他の地球的なデフォルト通貨に置き換える目標があることを、公的に宣言した。ロシアと中国がついにそのような現実の第一歩を取り始めた今、世界の残りの 3 分の 2 も、同様に米ドルの使用をやめる用意をし始める公算が大きい。その 133 か国がまさにそのようにする盟約を結んだのは、この週末のことに過ぎない。

アメリカ人にとって恐ろしいのは、ワシントンもウォール街も、そんなことは起こらないと約束したことだ。なぜなら、もしそんなことが起これば、それはアメリカの経済システムと、おそらくアメリカそのものを、破綻させることになるからである。更なる情報については [Whiteout Press](#) の “[Russia-China Deals move US Dollar closer to Collapse](#)” を参照されたい。G77 を構成する 133 か国のフル・リストは、[Group of 77 website](#) に出ている。